

「多賀城を1300句で表すプロジェクト」に参加しました

9月24日（日）、多賀城碑（壺の碑）で行われたプロジェクトに語学研究部員6名が参加しました。講師の宮城県出身の俳人である高野ムツオさんと、ゲストの河北新報社多賀城支局記者の浦響子さんからアドバイスを受けながら、澄み渡った秋空の下、俳句を詠む機会をいただきました。そしてそれぞれの俳句を紹介しながら、日本語の持つ美しい表現を共に楽しむことができました。

### 【生徒の感想】

- 今まで自然と向き合うという機会がとても少なかったが、俳句をとおして、自然と向き合い、俳句の楽しさを改めて感じることができました。
- 何気ない自然に対して「美」を見出し、古い時をきた人々の価値観や美意識を感じ取れた。
- 多賀城の歴史や壺の碑に書いてあること、自然など多賀城に住んでいてもわからないことが多かったように感じた。
- 俳句を詠むことは苦手でしたが、ムツオさんの話を聴き、自然の美しさを感じ感性の違いを楽しめました。
- 歴史や季節を感じながら俳句を詠むのが難しかったが良い経験になった。
- 価値感の違いから生まれる俳句の多様性に感動した。

### 【俳句プロジェクトの様子】

